

田沼裁判資料——解題と目録

松尾 純子

はじめに

- 1 資料目録の構成
- 2 訴訟関係資料 (1>>>>>)
- 3 「田沼裁判の会」関係資料 (2>>>>>)
- 4 関連資料 (3>>>>>)
- 5 書簡類 (4>>>>>)

おわりに

田沼裁判資料目録 (抄)

はじめに

このたび、法政大学大原社会問題研究所は田沼裁判資料とその目録を受贈した。寄贈者は田沼肇(故人)・祥子夫妻である。田沼氏は進行性核上性麻痺という神経難病で障害者となり、1993年に東京都の重度心身障害者手当の受給を申請したが、資格に該当しないと通知され、その決定は不当であると都に異議を申し立て、棄却されると行政訴訟を提起した。長きにわたり社会政策・労働問題の研究者であり、労働運動や原水爆禁止運動・被爆者運動などに参加する運動者でもあり、その経歴の上に障害者の立場という新たな視座を得た田沼氏にとって、実態に依拠した認定を実施せよとの要求は、権利としての福祉の実現という、理論的・実践的な問題意識に裏づけられていた。その論点を明確にするための最終講義かつ社会的連帯の実践の場と、田沼氏は裁判を位置づけた。田沼裁判の意義についてはすでに論じているので⁽¹⁾、以下で簡略にまとめておきたい。

受給申請した手当は、重度障害のため常時複雑な介護を必要とする者に支給して福祉増進を図ることを目的とし、四肢の機能が失われた程度の障害などを支給要件としていた。非該当と通知された根拠は、都指定の整形外科医が作成した、四肢の機能は失われていないとする診断書にあった。

田沼氏が寝たきりの状態にならずにいられたのは、祥子氏をはじめとする周囲の懸命の介護があったからだ。しかし介護の負担はあまりにも重く、祥子氏自身が健康を損なうに至った。それ

(1) 拙稿「田沼裁判の意義—福祉のあり方への問いかけ」『大原社会問題研究所雑誌』526・527号、2002年9・10月。

まで同様の質の高い介護を維持するためにあらゆる方策が模索され、その一つとして手当申請もなされた。ところが、短時間の診察で、介護の質への考慮もなく、機能が残っているから手当を受給する資格はないとされてしまった。条例のこうした運用は不当だと田沼夫妻は訴えたのである。

条例の目的と支給要件との関連性、手当申請時に田沼氏の四肢の機能は失われていたと言えるか、この二点が裁判の争点となった。田沼氏側は、目的にある常時複雑な介護の有無こそが運用基準となるべきであり、また、当時の田沼氏は神経内科的な見地からはすでに機能喪失状態にあり、認定医は診断を誤ったと主張した。対する都側は、支給要件に該当する者こそが常時複雑な介護を必要とする者にあたり、認定医の診断から田沼氏はその支給要件に該当しないと主張した。裁判所の判決は、田沼氏側の主張を支給要件の緩和要求であるなどとして、都の決定を妥当とした。田沼氏側は最高裁まで上告したものの、2000年に敗訴が確定し、田沼氏は同年8月に亡くなった。

条例の運用基準、四肢の機能喪失の判断基準に対する異議申立ては、個人的利害からなされたものではなかった。田沼氏側は普遍的な問題提起を意図して証拠集めや論述をし、再申請によって受給資格を認定された後も訴えを取り下げなかった。また、非該当と通知された当初から資料の保存と整理に努めた。とりわけ祥子氏は、編集者として長年勤務した経験を生かし、介護の実践に工夫を凝らし、裁判にあたっては医療・看護・介護など多方面にわたって問題を具体的に示す証拠を集め、社会的・私的発信をも精力的に続けた。そして、これらの資料を公開することによって裁判が明らかにした論点をさらに発展させる研究と運動に寄与したいと寄贈に至った⁽²⁾。

介護保険制度の運用に伴い、認定の基準が権利としての福祉実現にあるか否かは利用者にとっての大問題となり始めている。認定のあり方への異議はまた被爆者の集団訴訟といった形でも出されている。かつてない長寿社会の実現で病気・障害・介護の問題を研究する必要性はますます高まっている。祥子氏は田沼氏没後に介護記録を上梓し⁽³⁾、現在も患者と家族の立場から医療や福祉の担い手へ発言し続けている。さらに今後、多分野の研究者によって多方面からの分析がなされることを期待し、以下、目録構成にしたがい整理方針や主要資料について紹介していきたい。

1 資料目録の構成

田沼裁判資料は全体を4部に分類して目録を作成した。第1部は異議申立てと行政訴訟の関係資料、第2部は裁判の支援団体である「田沼裁判の会」の関係資料、第3部は田沼夫妻等による社会的発信とそれへの応答およびその他の関連資料、第4部は書簡である。

目録作成にあたり、資料には分類番号を兼ねた6桁の整理番号を付した。6桁目がかつとも大きな分類項目を表わし中・小項目と細分して末尾の2桁が各小項目ごとの通し番号となっている。例えば「訴状」(111101)の場合、第1部訴訟関係資料(1>>>>>)の訴訟資料(>1>>>>)の一番段階(>>1>>>)の原告側書面(>>>1>>)の最初の資料(>>>>01)であることを示す。以下、見出しや本文中で上と同様に資料番号を付すことにする。

(2) 寄贈に先だって、筆者が研究所の業務とはまったく別個に資料整理と目録作成を任された。寄贈時期と資料紹介が大幅に遅れた責任は筆者にある。関係者諸氏にこの場を借りて深くお詫びしたい。

(3) 田沼祥子・田邊順一著『フォト・ドキュメント いのち抱きしめて—在宅介護13年』日本評論社、2002年。

資料整理と分類にあたり、原秩序を尊重しつつ取捨選択や再分類・配列変更などを行なった。目録は原則として資料1点ごとに標題・作成日・数量・内容・備考・その他各項目に適宜データ入力した。標題は一見して明らかなものはそれを採り、煩雑なので「」は省略した。採録のため便宜上付けた標題には〔〕を付した。作成日は原則として資料の作成年月日を使った。不明時には資料中の年月日で代用し、他資料からの推定には〔〕を付して根拠を注記し、なお不明な場合は「xx」とした。数量は書類の場合には1頁・1枚をともに1pと表記し、封筒などは数のみを記した。標題以外の付属資料の存在は頁数を+でつないで表した。例えば2p+1〔付：封筒〕とは、標題の資料2枚(または2頁)のほかになんかが入っていた封筒が添付されていることを示す。B4・A3用紙は原則として1枚を2頁と数えたが、1枚1頁の場合もある。内容には資料の内容に関する事項を、備考には資料の形態などを記載した。その他出所など数項目がある。採録した標題の総数は882である。今回掲載する目録では、紙幅の都合上、備考以下の項目を省略し、第1～3部の一部と第4部全部を割愛した。目録全体と資料の閲覧・利用は、研究所にお問い合わせ願いたい。

2 訴訟関係資料 (1>>>>>)

異議申立て資料 (>0>>>>)

当初は訴訟資料の公開が考えられ、この部分は整理作業末期に追加した。そのため整理番号には0を付してある。ここには、非該当通知を受けてから東京都に異議申立てを行ない都の決定が下るまでの段階の主要書類 (>>10>>) を収めた。発端となった「重度心身障害者手当受給資格認定非該当通知書」(101001) や「異議申立書」(101002)、田沼夫妻ら関係者が都に対して直接に口頭で意見陳述した記録の「重度心身障害者手当受給資格認定非該当通知の取消しを求める異議申立て事件口頭意見陳述・参考人陳述速記録(以下、「速記録」と略)」(101010)、陳述後に補足として提出した「意見書」(101011)、異議申立ての却下を知らせる都の「決定」(101012) などがある。これら基本資料は、訴訟の際にも原告と被告の双方から証拠として裁判所に提出されたが、重複をいわず収録した。なお、「速記録」は『賃金と社会保障』(311002, 313114) に掲載された。

訴訟資料 (>1>>>>)

田沼裁判資料の主要部である。訴訟資料は、裁判所に提出された書類と書証・人証および判決を、各段階別に、原告(田沼氏)側と被告(東京都)側に分類した。項目名は次のとおり。

一審(東京地裁) (>>1>>>)

原告側書類 (>>>1>>) / 被告側書類 (>>>2>>) / 判決 (>>>3>>) / 原告側書証 (>>>4>>) / 被告側書証 (>>>5>>) / 人証 (>>>6>>)

控訴審(東京高裁) (>>2>>>)

原告側書類 (>>>1>>) / 被告側書類 (>>>2>>) / 判決 (>>>3>>) / 原告側書証 (>>>4>>)

上告審(最高裁) (>>3>>>)

原告側書類 (>>>1>>) / 決定 (>>>2>>)

書面や書証は、草稿段階のものや支援者に送ったり裁判の意義を勉強したりするためのコピーが

多数残っていたが、可能な限り「副本」や「控」と押印された資料を収録した。わずかに裁判の弁護団がおかれた東京合同法律事務所の保存資料から複写したものがある。

書書類には「訴状」（111101）や「答弁書」（111201）や「準備書面」（111103, 04, 07, 09, 111203～06, 112103, 06, 112202）などがあり、これらで双方の主張の骨子が理解できる⁽⁴⁾。

原告側書証は一審・控訴審で計51通（111401～36, 112401～15）提出された。一審の書証は、手当の受給資格要件を満たすと証明するための「カルテ」（111409）、「田沼肇介護の記録」（111412）、「〔田沼祥子〕日誌」（111414）、夫妻が雑誌に発表した手記類（111415～22）、病状を撮影したビデオテープ（111424, 34）などで、個人の記録としては相当に多様かつ詳細なものである。手記類とビデオテープの「証拠説明書」（111105, 06）もある。控訴審では、一審での主張を補強する祥子氏の陳述書や手記（112401, 05, 06）や診断の問題点を指摘する陳述書（112414, 15）のほか、条例制定当時の都議会の会議録や委員会速記録（112403）、介護保険との比較の観点からの資料（112407～13）も集められた。なお、ビデオテープは第3部にあるものも含めすべてDVD形式で複製された。

被告側書証は一審段階でのみ15通（111501～15）提出された。「重度心身障害者手当診断書」と同「受給資格判定書」（111504, 05）が非該当判定の根拠である。資格認定のための診察で、四肢の機能が失われているとは認められないと診断されていた事実は、東京都の「決定」（111509）で初めて明らかになり、裁判でようやく田沼氏側に示された。

人証には資格認定の担当医と田沼氏の主治医および祥子氏の「証人調書」（111601～03）がある。担当医は診断書作成の経過や判定会議のようすなどを、主治医は神経内科医の立場から病状や周囲の高度な介護について、祥子氏は診断書の妥当性への疑問や介護の複雑さなどを証言した。

裁判所の判決（111301, 112301）および決定（113201）は独立させた。なお、両判決と決定は「社会保障・社会福祉判例」として『賃金と社会保障』（311006, 313303）に掲載された。

3 「田沼裁判の会」関係資料（2>>>>>）

田沼氏が提訴に踏み切ってから、職場や運動を通じた友人・教え子たちが、病状・介護の負担・提訴の理由などを知り、裁判を傍聴し、それぞれに支援を呼びかけ、感想文集をつくるなどの活動を始め、1997年3月の第3回口頭弁論のあと「田沼裁判の会」を結成した。第2部では、田沼家と会の事務を担った世話人宅に分散していた資料を集めた後、傍聴記録・通信類・活動記録に大別して整理した。その過程で会宛の書簡は原則として第4部に移した。

傍聴者名簿など主にプライバシー上の理由から、研究所に送られた第2部資料は原本から主要部を抜粋して新たに作成した副本である。田沼家でのみ閲覧できるものは資料番号の末尾にTと記した。通信や新聞記事の切抜きなど他で収録したために抜粋しなかったものは備考に注記した。

傍聴記録（>1>>>>）

田沼裁判傍聴記録（>>10>>）は、会が田沼家に置いていた同タイトルの2穴ファイルから中身

(4) その概要は前掲拙稿82-89頁を参照されたい。

だけを取り出した資料である。それに傍聴者名簿 (>>20>>) をまとめ本項目を立てた。一審では10回の口頭弁論が行なわれたが、ほぼ全回の傍聴参加者名簿と前半5回の傍聴活動記録が残っている。「上田誠吉〔陳述要旨〕」(211002) は弁護人の上田氏自身が口頭弁論当日に東京地裁で書いたもので、「第1回口頭弁論傍聴者文集」(231107) の巻頭にもある。「田沼訴訟第2回口頭弁論レポート」(211005) は弁護人の加納小百合氏が当日の流れをわかりやすくまとめたものである。

通信類 (>2>>>>)

「田沼裁判の会」は訴訟への傍聴参加のほかには運動への参加呼びかけや傍聴報告などの通信を出して支援活動を行っていた。こうした傍聴記録や通信類からは、口頭弁論の日時・傍聴参加人数・弁論内容など、裁判の経過と支援の広がりを容易にたどることができる。

田沼裁判の会ニュース (>>10>>) には、会の正式発足以前の「田沼肇訴訟第3回口頭弁論のお知らせ」(221001) から田沼氏の一周忌に出された「ごあいさつ〔会終了通知〕」(221021) までを日付順に配列した。1997年6月の「田沼裁判第5回口頭弁論のお知らせ」(221004) までは46通程度の発送規模であった。その後、7月にリーフレット『田沼裁判とは』(221005) を発行、「第6回口頭弁論のお知らせ」(221006) には、1300部印刷したそのリーフレットをさらに増刷したとある。この時期に会員数も急増し活動も活発化、口頭弁論の第7回から第10回まではA4版2～4頁の充実したニュース(221007～10) が出された。それによると、第7回頃には会員数が180名を超え、第8回で269名、第9回で270名余、リーフレットは合計1800部作成された。その他ニュースには傍聴記録、会の活動日誌、活動予定、裁判報道の記録、祥子氏の文章や来信の紹介などがある。また、書証や証言等も編集され参考資料として同封された。

『「田沼裁判」ニュース』(>>20>>) は、通産省調査統計局OB会の飯沼勝男氏が「田沼裁判の会」として別に作成したニュースで11通ある。飯沼氏は世話人会の一人でもあったので、ここに収めた。

活動記録 (>3>>>>)

会は世話人数名が事務を担い、その活動は初期には文集やリーフレット作成によって裁判支援の輪を広げることに力が注がれた。支援者が増えた時点ではニュース発行に重点を置きながら、裁判についての学習会、田沼氏を囲んでの花見や誕生会などを主催した。一審と控訴審の判決前に勝利判決を求める署名運動を行なったほか、諸運動団体との交流によっても支援活動を進めた。

世話人会記録 (>>1>>>) には、事務的な記録類を集めた。田沼裁判の会活動 (>>>1>>) は田沼裁判傍聴記録(2110>>)と同様にファイルから抜き出した資料で、裁判の傍聴を呼びかけるちらし(231002, 03)、「第1回口頭弁論傍聴者文集」(231007) やリーフレットの原稿類(231005, 06, 09～14) などがある。その他活動記録 (>>>2>>) には目録作成過程で収集された世話人会の活動が窺える資料をまとめた。また、分量的な問題などから入会申込書類 (>>>3>>) で一項目を立てた。

学習会活動は裁判が提起している問題を考え合うために行なわれた。会には田沼夫妻も参加したが、その交流が田沼氏にとっての治療でもあり介護の創造の実践でもあった。集会・学習記録 (>>20>>) には、1998年3月の「田沼裁判の争点・論点」と題する泉澤章・加納両弁護士に話を聞く会の資料(232001, 02) と、一審判決日間近の8月に開かれた「介護の創造と保障権」と題する

勉強会の資料（232003～05）などがある。これらは田沼氏側から訴訟関係資料を位置づける際に重要である。また、東葛看護専門学校の学生による地域フィールド報告「生きるってどういうこと？—田沼裁判の文献学習で学んだ事」（232006）も最終講義としての裁判の意義を端的に示している。

署名活動（>>30>>）には、一審の『田沼裁判』勝利判決を要請する署名のお願い」（233001）と、控訴審の「田沼裁判の第二審結審にあたり『第一審不当判決取消』要請署名のお願い」（233008）をはじめとする一連の資料を取めた。「田沼裁判の会ニュースNo.6」（221012）によると一審では67の団体署名と3千名余の個人署名を集めた。

交流記録（>>40>>）には、東京都医療社会事業協会が裁判の状況や会の活動に注目し、雑誌に取り上げるまでの一連の資料（234008～12）をはじめ、諸団体と会との交流記録を取めた。

4 関連資料（3>>>>>）

発信・応答（>1>>>>）

田沼夫妻は、自身の著作での言及や新聞・雑誌への投稿あるいは知人や裁判支援者等への近況報告といった形で、裁判の内容ばかりでなく病気や障害を通じて見えた問題を公表し続けた。その発信に注目した取材記事や読者からの反響も諸所に載った。それら応答もまた丹念に収集された。資料の分量と性格から考え、寄稿・報道（>>3>>>）の項目を立て、これらの掲載紙誌原本から該当部分をコピーして日付順にまとめ、異議申立て段階（>>>1>>>）、訴訟段階（>>>2>>>）、結審後（>>>3>>>）と時期区分した。標題に採録した総数は115にのぼる。これらは個人の経験を社会の共有財産にしようとした田沼裁判の特色を如実に示している。ほぼ原本が保存されているが、切り抜きやコピーしか残っていないものも若干ある。結審前後からは諸事情から多少の収集もれが窺われるが補遺はしなかった。本項目の末尾の決定とともにこの辺りは暫定的なりストである。

主要刊行物（>>10>>>）はそのなかから主要文献リストの意味合いを兼ねて書名・誌名を標題として抜き出したもので9点ある。田沼氏が発病後に出版した編著『労働運動と企業社会』（311001）、『私のなかの平和と人権』（311003）と『いのち抱きしめて』（311009）については研究所ですでに所蔵しているので目録記載のみとした。「速記録」や判決等の掲載誌（311002, 06）と泉澤弁護士の論説掲載誌（311004, 08）はコピー（313114, 313303, 313233, 313308）を作成したために目録記載のみ。『今日を生きる—「田沼裁判」が問いかけるもの』（311005）は、1994年に開かれた講座の記録を中心にして99年に出されたパンフレット、「田沼肇さんを偲ぶ会」（311007）は2001年に行なわれた同会で配られたパンフレットである。

田沼夫妻の連名で出された近況報告などの葉書類（312001～10）10通は、公表されたものとみなし、近況報告（>>20>>>）としてここに置いた。

訴訟関連資料（>2>>>>>）

異議申立段階（>>10>>>）には、祥子氏作成の「異議申立」ファイルから主要書類（1010>>>）を除いた残りを取めた。夫妻に宛てた上田弁護士の書簡（321002, 04～06, 09～12）などがある。

訴訟段階（>>2>>>>>）には、田沼家の裁判資料を収納していた棚にあった資料のうちで、以上のどこにも分類できなかったものの収録する価値があると判断したものをまとめた。書証・判決

(>>>1>>)には、提出されなかった書証(322101, 02)と祥子氏の反論が書き込まれた判決コピー(322103)がある。ビデオ構想(>>>2>>)の一連の資料(322201~09)は、「甲第34号証」(111434)の当初の構想を示すものである。外出時や日常を撮影したビデオ類7本と複製のDVD11枚も〔田沼肇映像資料〕(311110)としてここにまとめた。田沼肇療養年表(>>>3>>)は祥子氏が作成した年表(322301~03)で、1987年以降の「生活・病状」・「医療」・「ホームヘルパー・デイサービス」・「福祉機器・住宅改造」・「福祉行政措置」・「妻の身体状態」を記した詳細なもので、97・99・2000年の各版がある。メモ類(>>>4>>)には上の年表の基となった「田沼肇 医療と福祉のデータメモ」(322401)や各種のメモを集めた。他団体の取り組み(>>>5>>)は、田沼裁判への支援についての記述がある諸団体の文書である。

5 書簡類 (4>>>>>)

関連資料の発信・応答(31>>>>)には刊行物に掲載された投書を収録したが、ここには田沼夫妻宛の私信と「田沼裁判の会」宛の書簡をそれぞれ日付順に配列した。田沼肇・祥子宛(>1>>>>)の目録記載は形態に拘わらず日付順としたが、資料では葉書を抜いて末尾にまとめた。書簡の大半は目録作成の着手時点ですでに祥子氏によって袋詰めにされタイトルがつけられていた。小分類の項目名にそのタイトルを部分的に使った。目録にはほぼ1通ごとに差出人名・発信年月日・枚数・形態・内容を探った。異議申立てから結審までの6年間の、裁判関連事項に言及している書簡にほぼ限定して選別されているにも拘わらず、750通と膨大である。これには田沼夫妻の交友範囲の広さ、社会的発信の効果なども考えられるが、最大の理由は感想や意見や近況を送ってほしいと呼びかけ続けていたことにある。田沼氏の心身の不自由度が増すなかで、残された聴力を活かし手紙の読み聞かせによって脳に刺激を与えようとしたのだった。また、個人的問題を普遍の問題として考えあうことにより各人のよりよい生の実現に寄与したいと願っていたからでもある。呼びかけに応じて一人が出した約2年間に217通もの葉書の分厚い束(412001)は特筆に値する。

「田沼裁判の会」宛(>2>>>>)の書簡は、先述のように「田沼裁判の会」資料から移動したもので51通ある。宛先や内容上からは夫妻宛の私信に入れるべきものも、逆に私信から会宛へと移すべきものもあるが、目録作成時点での資料所蔵の別を優先した。

この膨大な書簡は、裁判の社会的影響力や福祉の問題の所在を考える上で重要な資料である。

おわりに

目録に収録された全資料が研究所に寄贈されるが、傍聴者名簿類、音声・映像資料および書簡類は当面武蔵野市にある田沼家で保管される。寄贈資料の副本(控)も揃っており、ここでも全資料の閲覧・調査ができる。当事者への聞きとりを含む本格的な研究がなされることを祥子氏は切望している。田沼家には裁判関連とは一線を画す方針から本目録に未収録の日記や介護記録ほか多数の福祉・介護関係資料もあり、看護・介護の研究者による分析が始まりつつある。

最後に、田沼裁判資料の整理に際し、飯沼勝男氏・泉澤章氏・角倉洋子氏・木下悦子氏・三階泰子氏・鎮目恭夫氏・辻山妙子氏・安田和也氏・山村茂雄氏(50音順)に資料のご提供を受けた。記して感謝の意を表したい。

(まつお・じゅんこ 法政大学大原社会問題研究所兼任研究員)

田沼裁判資料目録（抄）

* 目録全体と資料の閲覧については法政大学大原社会問題研究所に
問い合わせられたい。

資料番号	標題	作成日	数量	内容
1>>>>>	訴訟関係資料			
>0>>>>	異議申立て資料			
>>10>>	■主要書類			
>1>>>>	訴訟資料			
>>1>>>	一審（東京地裁）			
>>>1>>	■原告側書面類			
111101	訴状	1996/10〔/08〕	16p	
111102	証拠申出書	1997/01/21	5p	
111103	準備書面一	1997/05/13	8p	
111104	準備書面二	1997/05/13	3p	
111105	証拠説明書	1997/07/08	8p	
111106	証拠説明書二	1997/08/xx	25p	
111107	準備書面三	1997/09/26	20p	
111108	証拠申出書	1997/11/11	8p	
111109	準備書面四	1998/06/01	55p	
>>>2>>	■被告側書面類			
111201	答弁書	1996/12/20	13p	
111202	証拠の申出	1996/12/20	3p	
111203	準備書面（一）	1997/01/21	3p	
111204	準備書面（二）	1997/03/18	5p	
111205	準備書面（三）	1997/05/13	3p	
111206	準備書面（最終）	1998/06/01	11p	
>>>3>>	■判決			
111301	判決	1998/09/30	74p	
>>>4>>	■原告側書証	[作成日欄省略]		
111401	甲第一号証	2p		重度心身障害者手当受給資格認定非該当通知書 (1994/01/20)
111402	甲第二号証	4p		身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用) (1992/ 06/03)
111403	甲第三号証	2p		難病治療患者調査票・難病治療患者診断書 (1992/ 06/03)
111404	甲第四号証	4p		身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用) (1993/ 03/19)
111405	甲第五号証	2p		難病治療患者調査票・難病治療患者診断書 (1993/ 04/22)
111406	甲第六号証 (の1, 2)	4p		特別障害者手当認定診断書 (1993/08/19)
111407	甲第七号証	2p		難病治療患者調査票・難病治療患者診断書 (1994/ 04/30)
111408	甲第八号証	4p		身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用) (1995/ 05/xx)
111409	甲第九号証	7p		紹介状・カルテ (1995/09/30)
111410	甲第一〇号証	1p		特別障害者手当認定通知書 (1993/11/09)
111411	甲第一一号証	8p		意見書 (1994/09/10)
111412	甲第一二号証	16p		田沼肇介護の記録・略歴及び病歴 (1994/02)
111413	甲第一三号証	35p		重度心身障害者手当受給資格認定非該当通知 の取消しを求める異議申立て事件口頭意見陳

111414	甲第一四号証	11p+12p	述・参考人陳述速記録（1994/05/10） 〔田沼祥子〕日誌（1993/09/01～12/31）〔コピー版〕,〔清書版〕
111415	甲第一五号証（の1～13）	4p+24p+5p	『看護実践の科学』田沼肇・祥子「パーキンソン病とつき合う」（1994/06～95/06）ほか
111416	甲第一六号証	5p	『看護学雑誌JJN』川島みどり「今日を楽しく一障害のある暮らしを夫婦で 田沼肇・祥子夫妻」（1994/09）
111417	甲第一七号証	4p	『月刊ゆたかなくらし』「輝になるひと一寝たきりにさせないように今を大切にする」（1995/03）
111418	甲第一八号証	5p	『婦人通信』「それでも一緒に暮らしたい」（1995/06）
111419	甲第一九号証	3p	『婦人通信』「どこまで一緒に暮らせるか」（1995/06）
111420	甲第二〇号証	2p	『月刊保団連』「難病とともに生きる」（1995/09）
111421	甲第二一号証	3p	『婦人通信』「どうしたら一緒に暮らせるか」（1996/04）
111422	甲第二二号証	6p	『ふれあいの輪』「ケアチェアのユーザーを訪ねて（事例3）」・「あなたならどうする 田沼祥子」（1996/秋）
111423	甲第二三号証	4p	『賃金と社会保障』上田誠吉「東京都重度心身障害者手当非該当に異議申立て」（1994/08上旬）
111424	甲第二四号証	1+1	田沼さん 93年 NHK未編集テープ, 同DVDコピー
111425	甲第二五号証	24p	『改訂 身体障害認定基準』（1990/10/20）（pp.201-217, 244-247）
111426	甲第二六号証	5p	岩田誠履歴書
111427	甲第27号証	17p	陳述書 田沼祥子（1998/01/09）
111428	甲第28号証	5p	『神経内科学書』（pp.599-600）（1996/09/20）
111429	甲第29号証	12p	『今日の神経疾患治療指針』（pp.3,535-538,897-900）（1994/07/15）
111430	甲第30号証	16p	『研究助成・事業助成報告書』第6回（平成7年度）「高齢者による在宅介護が心肺機能に及ぼす影響についての検討」（pp.119-132）
111431	甲第31号証	4p	『Nursing today 1998』Vol.13, No.1 荒井由美子「在宅介護者の半数が“抑うつ状態”に一介護者の意識調査からわかったこと」（1998/01）（pp.70-73）
111432	甲第32号証	23p	陳述書 川島みどり（1998/01/19）
111433	甲第33号証	5p	陳述書 田沼祥子〔田沼肇の主要症状説明一岩田誠談話要旨〕（1998/03/04）
111434	甲第34号証	1+1	田沼肇日常生活 1997年9月11, 17日撮影, 同DVDコピー
111435	甲第35号証	11p	陳述書 田沼祥子（甲34号証のビデオテープについての説明）（1998/03/16）
111436	甲第36号証	1p	診断書 田沼祥子（1997/09/22）
>>>5>>	■被告側書証		〔作成日欄省略〕
111501	乙第一号証	6p	『東京都令規集6』「東京都重度心身障害者手当条例」（pp.5842-5844, 5846）

111502	乙第二号証	3p	重度心身障害者手当受給資格認定申請書 (1993/08/25)
111503	乙第三号証	2p	重度心身障害者手当受給資格認定申請者にかかる障害程度の判定について (1993/09/28)
111504	乙第四号証	4p	重度心身障害者手当診断書 (肢体不自由用) (1993/12/01) ほか
111505	乙第五号証	1p	重度心身障害者手当受給資格判定書 (1993/12/28)
111506	乙第六号証	4p	異議申立書 (1994/03/15)
111507	乙第七号証	4p	重度心身障害者手当受給資格判定書 (1995/06/29) ほか
111508	乙第八号証	1p+1p	重度心身障害者手当受給資格認定通知書 [1995/08/01] [付: 日付入通知書コピー]
111509	乙第九号証	12p	決定 (1996/07/11)
111510	乙第一〇号証	8p	「資料 4 東京都重度心身障害者手当取扱要領」 (pp.108-115) (1992/08/01)
111511	乙第一一号証	4p	陳述書 藤森達朗 (1997/03/18)
111512	乙第一二号証	4p	『東京都令規集1』「東京都事案決定規程」 (pp.4129-4130)
111513	乙第一三号証	8p	『福祉局事案決定実施細目』 (p.1, 3, pp.14-15) (1989/10/01)
111514	乙第一四号証	2p	医学判定票 (乙) 肢体不自由 (1993/12/01)
111515	乙第一五号証	3p	上申書 藤森達朗 (1997/11/11)
>>>6>>	■人証		
111601	証人調書	1997/09/26	74p 藤森達朗
111602	証人調書	1997/11/11	38p 岩田誠
111603	証人調書	1998/03/20	44p 田沼祥子
>>2>>>	控訴審 (東京高裁)		
>>>1>>	■原告側書面類		
112101	控訴状	1998/10/12	5p
112102	証拠申出書	1999/03/01	4p+2p [付: (別紙) 尋問事項書]
112103	準備書面 (一)	1999/03/01	41p
112104	期日変更申請書	1999/05/21	4p+1p [付: 診断書]
112105	証拠申出書	1999/06/28	2p+1p+1p [付: (別紙) 尋問事項書一, 二]
112106	準備書面 (二)	1999/09/06	16p
>>>2>>	■被告側書面類		
112201	答弁書	1999/03/01	2p
112202	準備書面 (一)	1999/04/19	10p
>>>3>>	■判決		
112301	判決	1999/10/18	17p
>>>4>>	■原告側書証		[作成日欄省略]
112401	甲第37号証 (の1, 2)	2p+2p	『看護実践の科学』「家族の目から見た在宅看護・医療」①② (1998/01, 02)
112402	甲第38号証 (の1~3)	3p+5p+8p	東京都心身障害者福祉センター条例, 同施行規則, 同処務規程
112403	甲第39号証 (の1, 2)	4p+4p	昭和48年東京都議会会議録第1号, 厚生文教委員会速記録第20号
112404	甲第40号証	1p	「脳と運動」利根川進『朝日新聞』(1998/05/20)
112405	甲第41号証	6p+12p	陳述書 (日記について) (田沼祥子) (1999/06)

112406	甲第42号証	20p	陳述書 (田沼祥子) (1999/06/05)
112407	甲第43号証	5p	2000年4月スタート! 介護保険を知らう
112408	甲第44号証 (の1, 2)	6p+70p	〔介護保険〕認定調査票 (概況調査), 認定調査票記入の手引き
112409	甲第45号証 (の1, 2)	3p+14p	〔介護保険〕主治医意見書, 主治医意見書記入の手引き
112410	甲第46号証	1p	新たな物差し「介護の手間」『朝日新聞』(1999/05/10)
112411	甲第47号証	1p	社説 介護保険/本当に心配すべきは (1999/08/09)
112412	甲第48号証	31p	「要介護認定におけるかかりつけ医の役割」天本宏『2000年からの医療と介護』(1999/01/10)ほか
112413	甲第49号証	4p	参考/各要介護状態区分の状態像の例 (平成10年度)『介護保険制度の解説』(1998/09)
112414	甲第50号証	17p	陳述書 窪田静 (1999/09/03)
112415	甲第51号証	7p	陳述書 太田宏平 (1999/09/04)
>>>3>>>	上告審 (最高裁)		
>>>1>>	■原告側書面類		
113101	上告状兼上告受理申立書	1999/10/29	6p
113102	上告理由書提出期間伸長申請書	2000/01/xx	4p
113103	上告受理申立理由書提出期間伸長申請書	2000/01/xx	4p
113104	上告理由書	2000/01/05	8p
113105	上告受理申立て理由書	2000/01/05	14p
>>>2>>	■決定		
113201	決定	2000/03/17	5p
2>>>>>	「田沼裁判の会」関係資料		
>1>>>>	傍聴記録		
>>10>>	■田沼裁判傍聴記録		
211001	第1回口頭弁論〔記録表紙〕		1p
211002	上田誠吉〔陳述要旨〕	1996/12/20	1p
211003T	田沼肇訴訟傍聴参加名簿	1996/12/20	2p
211004	第2回口頭弁論〔記録表紙〕		1p
211005	田沼訴訟第2回口頭弁論レポート	1997/01/21	2p
211006T	田沼肇訴訟傍聴参加者名簿	1997/01/21	2p
211007T	田沼裁判第2回公判傍聴参加者	1997/01/21	2p
211008	第3回口頭弁論〔記録表紙〕		1p
211009	東京都 自らの答弁を撤回	1997/03/18	1p 『東京民医連』No.668 (1997/04/05)
211010	田沼肇訴訟第3回口頭弁論のお知らせ	1997/03/08	1p 3/8発送
211011T	田沼肇訴訟傍聴参加者名簿	1997/03/18	3p
211012T	田沼肇訴訟第3回口頭弁論〔傍聴参加者名簿〕	1997/03/18	1p
211013	第4回口頭弁論〔記録表紙〕		1p
211014	コロコロ変わる答弁 問われる都の姿勢	1997/05/13	1p 『東京民医連』No.674 (1997/06/15)
211015	第4回口頭弁論	1997/05/15	2p×2 傍聴記録 辻山妙子作成
211016	田沼裁判第4回口頭弁論のお知らせ	1997/05/01	1p 5/1発送
211017T	第4回口頭弁論傍聴〔者名簿〕	1997/05/13	1p

211018T	田沼裁判の会名簿	1997/05/13	2p	
211019	田沼裁判第5回口頭弁論のお知らせ	1997/06/30	1p	6/30発送
>>20>>	■傍聴者名簿			
>2>>>>	通信類			
>>10>>	■田沼裁判の会ニュース			
221001	田沼肇訴訟第3回口頭弁論のお知らせ	1997/03/08	1p+1	[付：付せん] 3/8発送23通
221002	田沼裁判の会おしらせ〔花見のおさそい〕	1997/03/27	1p+1+1	[付：付せん] 3/27発送32通
221003	田沼裁判第4回口頭弁論のお知らせ	1997/05/01	1p	5/1発送46通
221004	田沼裁判第5回口頭弁論のお知らせ	1997/06/30	1p	6/30発送46通
221005	『田沼裁判とは』	1997/07/10	8p	
221006	田沼裁判第6回口頭弁論のお知らせ	1997/09/13	1p+4p	[付：以前の葉書4通] [9/13消印]
221007	田沼裁判の会ニュース	1997/12 [/19]	3p	
221008	田沼裁判の会ニュース	1998/02 [/23]	2p+3p	[付：田沼祥子陳述書]
221009	田沼裁判の会ニュース No.3	1998/05/18	4p+4p	[付：田沼祥子陳述書]
221010	田沼裁判の会ニュース No.4	1998/06/10	3p	
221011	田沼裁判の会ニュース No.5	1998/09/18	1p	
221012	田沼裁判の会ニュース No.6	1998/10/05	1p	
221013	ご案内	1999/02/08	1p+1p	[付：『今日を生きる』ちらし]
221014	ごあんない	1999/03/18	1p+1p	[付：ごあいさつ 田沼肇・田沼祥子]
221015	田沼裁判の会お知らせ	1999/05/28	1p	
221016	田沼裁判の会お知らせ	1999/07/xx	1p+1p	[付：近況報告 田沼祥子]
221017	田沼裁判についてのご連絡	1999/08/30	1p	
221018	田沼裁判の会お知らせ	1999/09/11	1p	
221019	田沼裁判の会お知らせ	1999/11/06	2p	
221020	田沼裁判の会お知らせ	2000/06/10	1p	
221021	ごあいさつ〔会終了通知〕	2001/08/09	2p+1	[付：〔ご報告とお礼〕 田沼祥子]
>>20>>	■『田沼裁判』ニュース			
222001	田沼さんの「たたかい」を応援しましょう	1996/12/21	1p	飯沼勝男
222002	『田沼裁判』のお知らせ	1997/01/22	1p	飯沼勝男
222003	『田沼裁判』ニュース No.3	1997/03/19	1p	飯沼勝男
222004	『田沼裁判』ニュース No.4	1997/05/15	1p	飯沼勝男
222005	『田沼裁判』ニュース No.5	1997/07/08	2p	飯沼勝男
222006	『田沼裁判』ニュース No.6	1997/09/28	1p	飯沼勝男
222007	『田沼裁判』ニュース No.7	1997/11/12	1p	飯沼勝男
222008	『田沼裁判』第9回口頭弁論	1998/04/20	2p+1p	飯沼勝男 [付：通産調統OB会田沼裁判支援・会計報告]
222009	『田沼裁判』ニュース (通産OB版)号外	1998/06/11	3p	飯沼勝男
222010	『田沼裁判』ニュース (通産OB版・号外)	1999/03/03	1p+1p	飯沼勝男 [付：通産調統OB会田沼裁判支援・会計報告]
222011	『田沼裁判』についてのお礼とお知らせ	1999/11/01	1p	飯沼勝男
>3>>>>	活動記録			
>>1>>>>	世話人会記録			
>>>1>>>>	■田沼裁判の会活動			
>>>2>>>>	■その他活動記録			

- >>>3>> ■入会申込書類
- >>20>> ■集会・学習記録
- >>30>> ■署名活動
- >>40>> ■交流記録
- 3>>>> 関連資料
- >1>>> 発信・応答
- >>10>> ■主要刊行物
- >>20>> ■近況報告
- >>3>>> 寄稿・報道
- >>>1>> ■異議申立て段階

313101	まえがき	1993/11/12	2p	田沼肇編『労働運動と企業社会』大月書店 (pp.3-4)
313102	秋田・田沼両教授の退職	1993/12/06	1p	「法政大学同窓会会報」No.6『創立10周年記念誌』所収 (p.44)
313103	パーキンソンもまた楽しか!	1993/12/16	1p	田沼肇「日本フィルハーモニー交響楽団456回定期演奏会」〔パンフレット〕
313104	身の回り品が途端に殺風景一病気で体が不自由になると	1994/03/24	1p	『日本経済新聞』夕刊 (婦人家庭)
313105	パーキンソン病とつき合う一田沼肇・祥子夫妻の場合	1994/06/01	4p	『看護実践の科学』19巻6号 (ザ・チャレンジ) (pp.59-62)
313106	難病の夫と暮らして思うこと	1994/06/27	2p	田沼祥子『出版OB会ニュース』28号 (pp.6-7)
313107	重度心身障害者手当受給資格非該当に対する異議申立一病気の苦しみと介護の実状	1994/07/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻8号 (パーキンソン病とつき合う①) (pp.62-63)
313108	新しい高齢者施設への期待	1994/07/01	1p	田沼祥子「北コミュニティセンター報」No.29
313109	渡辺千恵子には及ばないが	1994/07/05	1p	田沼肇『東京革新懇ニュース』160号 (p.3)
313110	現実の正しい認識から行動へ	1994/07/06	1p	田沼肇『原水協通信』605号 (リレー時評) (2面)
313111	私の介護体験：パーキンソン病の夫を介護する	1994/08/01	5p	田沼祥子『看護実践の科学』19巻9号 (特集 家族の病気に直面したとき 看護は家族をどう支えるか) (pp.19-23)
313112	介護者12人、外出先10か所一初夏の1週間	1994/08/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻9号 (パーキンソン病とつき合う②) (pp.66-67)
313113	真実に生きる一被爆49年におもう一	1994/08/05	1p	片山昇『東京革新懇ニュース』161号 (p.3)
313114	東京都重度心身障害者手当非該当に異議申立て一田沼肇・祥子さん夫妻の新しい闘い／関連資料	1994/08/10	4p+16p	上田誠吉『賃金と社会保障』1135号 (pp.46-49, 50-65)
313115	田沼先生御夫妻へ	1994/08/15	3p+1p	安積隆子『文学阪神』第30記念号 日本民主主義文学同盟阪神支部 (手記 pp.67-69) [付：安積隆子書簡コピー]
313116	今日を楽しく一障害のある暮らしを夫婦で 田沼肇・祥子夫妻	1994/09/01	5p	川島みどり『看護学雑誌』Vol.58 No.9 (pp.810-814)

313117	ともに生きるむずかしさー自立を助ける介護とは	1994/09/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻10号(パーキンソン病とつき合う③)(pp.54-55)
313118	福祉は誰のものかー受益者が感じる問題点	1994/10/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻11号(パーキンソン病とつき合う④)(pp.64-64)
313119	歩みは確実に前進	1994/10/05	1p	上田誠吉『東京革新懇ニュース』163号(p.3)
313120	補助器具を使ってみてー介助を楽に生活を楽しむ	1994/11/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻12号(パーキンソン病とつき合う⑤)(pp.56-57)
313121	病人の悩み, 介護者の悩み	1994/12/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』19巻13号(パーキンソン病とつき合う⑥)(pp.68-69)
313122	おしっこの心配と対策	1995/01/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻1号(パーキンソン病とつき合う⑦)(pp.50-51)
313123	住みよい高齢社会を考える 川島みどりさんで「人間講座」第七夜	1995/01/05	1p	『東京革新懇ニュース』166号 (p.8)
313124	「二世」の息苦しさ	1995/01/05	3p	田沼正平『婦人通信』No.429(仕事のこと, 親のことー30代前後)(pp.9-11)
313125	ヘルパーさんの実情と問題点	1995/02/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻2号(パーキンソン病とつき合う⑧)(pp.46-47)
313126	私たちのリハビリテーション	1995/03/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻3号(パーキンソン病とつき合う⑨)(pp.46-47)
313127	田沼祥子さんー寝たきりにさせないように今を大切に	1995/03/01	4p	『ゆたかなくらし』157号(輝になるひと)(pp.51-54)
313128	付き添って気づいたこと	1995/04/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻4号(パーキンソン病とつき合う⑩)(pp.58-59)
313129	介護用品の不思議	1995/05/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻5号(パーキンソン病とつき合う⑪)(pp.52-53)
313130	病を得て想うこと	1995/05/30	21p	田沼肇『私のなかの平和と人権』草の根出版会 (pp.181-201)
313131	グラフィックレポート 今日を楽しむ	1995/06/01	2p	田沼肇・祥子『看護実践の科学』20巻6号(パーキンソン病とつき合う…最終回)(pp.54-55)
313132	それでも一緒に暮らしたい	1995/06/05	5p	田沼祥子『婦人通信』435号(家族)(pp.12-16)
313133	田沼肇先生の近況レポート	1995/06/05	4p	木下悦子
313134	どこまで一緒に暮らせるか	1995/07/05	3p	田沼祥子『婦人通信』436号(pp.15-17)
313135	今月の便りー牛越仁子／八島澄子	1995/07/05	1p	『婦人通信』436号(読者のひろば)(p.2)

313136	難病とともに生きる	1995/09/01	2p	田沼祥子『月刊保団連』No.482(私と医療)(pp.54-55)
313137	第12回日本フィル協会総会(概要)	1996/01/01	1p+2p	『市民と音楽』133号(3面)〔付:『フォト』102号〕
313138	どうしたら一緒に暮らせるか	1996/04/05	3p	田沼祥子『婦人通信』446号(pp.11-13)
313139	どうなる老後1 公的介護保険を考える	1996/04/16	1p	『日本海新聞』
313140	難病でもWellness度を高くしたい	1996/04/xx	2p	田沼祥子『TSUDA WELLNESS NETWORK NEWSLETTER』4号(pp.5-6)
313141	今月の便り一原紀子	1996/06/05	1p	『婦人通信』448号(読者のひろば)(p.3)
313142	同窓生に期待する	1996/07/01	1p	田沼肇「法政大学同窓会会報」No.9『創立10周年記念誌』所収(p.70)
313143	ブックレビュー 私のなかの平和と人権	1996/07/01	1p	竹下睿騏「法政大学同窓会会報」No.9『創立10周年記念誌』所収(p.71)
313144	前進する日本フィルとともに	1996/07/03	1p	田沼肇『市民と音楽』136号(2面)
313145	今月の便り一内田正博/深作道子	1996/07/12	1p	『婦人通信』447号(読者のひろば)(p.2)
313146	被爆者と地域医療	1996/07/xx	1p	田沼肇『民医連医療』288号(随筆)(p.2)
313147	ケアチェアのユーザーを訪ねて(事例3)	1996/09/10	4p	石井賢俊『ふれあいの輪』10巻5号(「生活特性へのいすの適応と事例3—シリーズ ケア・チェアによる生活改善④」)(pp.10-13)
313148	あなたならどうする	1996/09/10	2p	田沼祥子『ふれあいの輪』10巻5号(不思議 ニッポンの福祉4)(pp.18-19)
>>>2>>	■訴訟段階			
313201	闘ってこそ明るく生きられる—パーキンソン病の原水協理事・田沼肇氏—	1996/11/01	5p	藪下彰治朗『週刊金曜日』145号(pp.19-23)
313202	被爆者に励まされて	1996/11/06	1p	田沼肇『原水協通信』633号(リレー時評)(3面)
313203	社会福祉のあり方問いたい	1996/12/15	1p	『赤旗』16594号(くらし・家庭)(10面)
313204	「田沼裁判」は社会福祉を“創造する”講義/なぜ提訴したか	1997/02/05	1p	泉澤章/田沼肇『東京革新懇ニュース』190号(p.4)
313205	久保山愛吉さんのバラ	1997/02/06	1p	田沼肇『原水協通信』636号(リレー時評)(2面)
313206	重い障害あっても“その人”らしく生きられる保障を/私たちの未来にかかわる問題/通常より症状進行おそい/じぶんのたたくたい/傍聴よびかけた	1997/03/15	1p	橋田淑子/泉澤章/沢浦美奈子/金原あゆみ/高橋ひとみ『東京民医連』667号(第二回口頭弁論を傍聴して)(4面)
313207	東京都 自らの答弁を撤回 田沼裁判第三回口頭弁論	1997/04/05	1p	『東京民医連』668号

313208	日本子どもを守る会結成45周年を迎えて	1997/04/15	1p	田沼祥子『子どもを守る』524号(2面)
313209	あとがき	1997/04/15	2p	五十嵐仁『徹底検証政治改革神話』(pp.235-236)
313210	クイズのはがきでひとこと—小林正之, 田沼裁判の会がお花見	1997/04/15, 25	1p	『東京民医連』No.669, 670
313211	コロコロ変わる答弁 問われる都の姿勢	1997/06/15	1p	『東京民医連』674号(2面)
313212	社会保障と人権擁護の充実をめざして—田沼先生の裁判闘争の支援を呼びかける—	1997/06/20	1p	竹下睿騏「法政大学同窓会会報」No.11『創立10周年記念誌』所収(p.85)
313213	福祉に冷たい都政ここにも—重度心身障害者手当却下	1997/07/02	1p	『赤旗』
313214	木下悦子さん	1997/07/12	1p	『赤旗』(話題 この人)
313215	こうして一緒に暮らしている	1997/12/05	2p	田沼祥子『婦人通信』467号(夫婦・私たちの場合)(pp.16-17)
313216	豊かな食生活が命を保つ	1998/01/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻1号(家族の目から見た在宅看護・医療①)(pp.72-73)
313217	新しい介護の創造をめざして—東京都重度心身障害者手当認定却下取り消し行政訴訟・田沼裁判のたたかいから	1998/01/01	7p	山村茂雄『ゆたかな暮らし』191号(pp.76-82)
313218	田沼裁判と二人の医師	1998/01/25	1p	上田誠吉『東京民医連』No.694(4面)
313219	とにかく動かすリハビリテーション	1998/02/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻2号(家族の目から見た在宅看護・医療②)(pp.72-73)
313220	社会福祉の根本を問う田沼裁判	1998/02/27	5p	上田誠吉『自由法曹団東京支部第26回定期総会特別報告集』(pp.16-19)
313221	幻覚も妄想も元気のもと	1998/03/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻3号(家族の目から見た在宅看護・医療③)(pp.72-73)
313222	機能喪失の判定難しく—社会福祉考える材料に	1998/03/23	1p	『産経新聞』(法廷から)(28面)
313223	家族の健康	1998/04/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻4号(家族の目から見た在宅介護・医療④)(pp.72-73)
313224	田沼裁判が問うもの—社会福祉とはなにか—	1998/04/01	4p+1p	上田誠吉『福祉のひろば』特集74号〔付:編集後記〕(pp.110-113, 132)
313225	神経難病とカラオケ大会	1998/05/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻5号(家族の目から見た在宅介護・医療⑤)(pp.72-73)
313226	『田沼裁判』に注目	1998/06/01	2p	和賀徹『ゆたかな暮らし』196号(トーク・ナウ)(pp.4-5)
313227	51年働き続けて, いま難病の夫を介護しつつ思うことは	1998/06/10	4p	田沼祥子『働く母の会ニュース』No.174(97年年末懇親会報告)(pp.1-4)
313228	〔投書〕宮坂洋子	1998/07/01	1p	『お元気ですか—出版OB会通信』No.120(p.4)

313229	続・家族の健康	1998/08/01	2p	田沼祥子『看護実践の科学』23巻9号 (家族の目から見た在宅看護・医療 最終回) (pp.68-69)
313230	難病と障害とともに暮らして11年	1998/10/01	5p	田沼祥子『福祉のひろば』特集76号 (写真・田邊順一) (pp.80-84)
313231	「介護実態重視の判定を」	1998/11/24	1p	『朝日新聞』朝刊 都内版
313232	写真でみる東友会40周年記念集会、 式典、祝賀会	1998/11/25	1p	『東友』No.169 (2面)
313233	「個性ある生」を全うするために 一都「重度心身障害者手当条例」 処分取消行政訴訟	1998/12/01	4p	泉澤章『法学セミナー』No.528 (福 祉と裁判) (pp.18-21)
313234	田沼裁判 東京地裁の判決 一都の処分を追認	1998/12/01	1p	竹下睿騏「法政大学同窓会会報」 No.14『創立10周年記念誌』所収 (p.111)
313235	『今日を生きる—「田沼裁判」が 問いかけるもの』	1999/02/06	1p	東京革新懇・「人間講座」運営委員 会編、シリーズ「人間講座」の記録 ⑥
313236	高齢社会、病気・障害のなかで人 間らしく生きぬくために	1999/02/15	1p	泉谷甫『ひろば』No.1059 (パンフレ ット紹介『今日を生きる』) (p.12)
313237	「人間らしく生きる」とは 「田沼裁判が問いかけるもの」 闘病・介護、田邊氏が撮影	1999/02/25	1p	『ジャーナリスト』491号 (3面)
313238	田沼訴訟は人権訴訟／田沼裁判 —東京高裁の公判はじまる	1999/03/05	2p	小川政亮／(ひろば)『東京革新懇ニ ュース』217号 (pp.2-3)
313239	『今日を生きる』の普及を	1999/03/15	1p	『東京民医連』730号(4面)
313240	フォト・エッセー 介護。それは、 人を生かすこと	1999/04/01	5p	田邊順一 (小学館教育編集部編)『い いきいき老人介護—まるごとBOOK』 (pp.4-8)
313241	「田沼裁判」が問いかけるもの	1999/04/25	1p	山下弘『東京民医連』734号 (ほん 『今日を生きる』) (8面)
313242	今日を生きる	1999/04/29	1p	『新婦人しんぶん』2310号 (本) (6面)
313243	今月の便り—三階泰子	1999/05/01	1p	『婦人通信』486号 (読者のひろば) (p.35)
313244	在宅医療・福祉への問題提起 『今日を生きる』を刊行	1999/05/01	1p	『看護実践の科学』24巻5号 (情報 コーナー) (p.106)
313245	重度障害の田沼さんが歌った	1999/05/01	1p	『市民と音楽』153号 (3面)
313246	田沼裁判・高裁第2回公判 今が 未来につながる裁判	1999/05/05	1p	『東京革新懇ニュース』219号(広場) (p.3)
313247	「自ら調べ考える」人との日々	1999/06/01	4p	田沼祥子『婦人通信』487号 (pp.16- 19)
313248	「いきいき老人介護」まるごとBOOK	1999/06/xx	1p	『高齢社会をよくする女性の会会報』 No.112 (本の自己紹介)
313249	お金も人も「安心の国」に 田沼肇さんを介護11年 妻・祥子 さんは語る	1999/07/18	2p	『赤旗』日曜版 (シリーズ介護を考 える) (28, 29面)
313250	今月の便り—三階泰子	1999/08/01	1p	『婦人通信』489号 (読者のひろば) (p.30)

313251	今月の便り—島岡弘子	1999/09/01	1p	『婦人通信』490号 (読者のひろば) (p.34)
313252	田沼裁判・二審結審 一審不当判決を取消せ	1999/09/05	1p	『東京革新懇ニュース』223号 (広場) (3面)
313253	今日を生きる 障害者に冷たい行政を問う	1999/09/25	1p	飯沼勝男 [『救援新聞』1292号 (Book) (6面)]
313254	今月の便り—田沼祥子	1999/10/01	1p	『婦人通信』491号 (読者のひろば) (p.33)
313255	重度障害者手当支給要求 田沼さんが敗訴	1999/10/20	1p	『赤旗』朝刊
313256	在宅介護一人で悩まず 大型の入門書続々と出版	1999/xx/xx	1p	
>>>3>>	■結審後			
313301	田沼肇さんを偲ぶ	2000/08/22	2p	泉谷甫『銀行労働調査時報』No.607 (pp.28-29)
313302	つねに新しい時代を開きつづけてきた生涯—田沼肇さんを偲んで—	2000/08/28	1p	山村茂雄『福竜丸だより』268号 (p.3)
313303	社会保障・社会福祉判例 田沼訴訟・東京地裁判決／東京高裁判決／最高裁決定 介護をめぐる裁判例	2001/01/01	14p	『賃金と社会保障』1289・90号 (pp.116-129)
313304	市民、労働者と共に／年表	2001/01/20	2p+3p	東京合同法律事務所『世紀をこえて ひとつの戦後小史—創立50周年』5章(pp.312-313, 363-365)
313305	田沼肇さんを偲ぶ会	2001/01/27	1p	
313306	原水協代表理事の田沼肇さんを偲ぶ会	2001/02/02	2p+1p	山中登志子『週刊金曜日』349号 (p.6) [付：山中書状〔コピー〕]
313307	介護保険認定不服申し立てのすすめ	2001/02/10	2p	田沼祥子『婦人通信』臨時 (509)号 (pp.24-25)
313308	福祉と裁判—「田沼訴訟」が問いかけたこと	2001/02/25	7p	泉澤章『賃金と社会保障』No.1292 (pp.4-10)
313309	田沼肇さんを偲ぶ会に210人が参加	2001/03/06	1p	『原水協通信』685号 (6面)
313310	『フォト・ドキュメントいのち抱きしめて—在宅介護13年』	2002/05/25	1p	田沼祥子文・田邊順一写真, 日本評論社
313311	『フォト・ドキュメントいのち抱きしめて—在宅介護13年』	2002/11/01	1p	中沢正夫『こころの科学』No.106 (ほんとの対話) (p.111)
>2>>>>	訴訟関連資料			
>>10>>	■異議申立段階			
>>2>>>>	訴訟段階			
>>>1>>	■書証・判決			
>>>2>>	■ビデオ構想			
>>>3>>	■田沼肇療養年表			
>>>4>>	■メモ類			
>>>5>>	■他団体の取り組み			